

ディベート進行シナリオのモデル

(＊ポイント) ディベートの構成や審判、司会の参考にしてください。

1) 肯定チームの立論2分

◇司会「では、これから<義務教育において給食を廃止すべき>というテーマに対する肯定論チームの立論をはじめてください。時間は2分です」
(＊テーマは中学生でもよくあるものですが、内容は高校生っぽい感じにしました。)

「肯定チームの高橋です。肯定論チームの立論を始めます。

その根拠は3つあります。1つは食事メニューの統一の問題です。同じメニューでは食べやすいもの、好き嫌いがあること、またアレルギーの有無などがあり、統一のメニューを出すことは不利益

(＊授業で学ぶアレルギーを生かしています)

を生じることがあります。2つは給食費です。経済格差の広がっている現代では、統一の費用で徴収することはデメリットが多いです。よく食べる児童生徒は得をして、小食の生徒は損をしています。弁当の持参では、個人に適した食事を取ることができます。これら2点の問題を解消できます。最後は衛生面です。給食センターで徹底した管理をしていてもしばしば、集団での食中毒が発生しています。また、給食そのものが安全でも配膳の段階でノロウイルスが広がる場合があります。これで肯定論チームの立論を終わります。」

◇司会「ありがとうございました。では続いて否定論チームから否定尋問をお願いします。」

2) 否定論チームからの否定尋問3分

(3分過ぎたら新しい質問には移らない。答弁が終わったところで打ち切り。)

「否定論チームの里見です。アレルギーの問題は、最近ではアレルギーをもつ生徒に特別なメニューを出す給食もありますが、その点についてはどう考えますか？」

「高橋です。アレルギー用のメニューを出すことは、別途にメニューを出すことで費用が発生し、それを全員が負担することになっています。また、小学校低学年のように、アレルギーの理解がない児童が配膳する段階でミスが生じるケースも起こっていて危険です。弁当であれば、混在することはありません。」

「里見です。衛生面という話がありましたが、家庭で作る弁当の方が、特に夏場など個人でつくった場合の方がセンターでつくるより、不衛生であると考えますがどうですか？」

「高橋です。その点は家庭で工夫すれば問題ないです。保冷剤をいれたり、食品を工夫すれば、解消できます。少なくとも集団での感染は起こりえません。そこが重要です。」

★答弁終了段階で3分を過ぎたら、

◇(司会現在の経過時間が○分○秒で、すでに制限時間を過ぎていますので、) 否定論チームの否定尋問はこれで終わります。

それでは、次に否定論チームの立論をお願いします。

3) 否定論チームからの立論 2分

「否定論チームの里見です。まず、給食のメリットを挙げます。同じ教室で同じメニューを食べることは、クラスや学校全体の集団意識を高め、また話題づくりにもなるので、仲がよくなるなどの心理的メリットが挙げられます。弁当では、家庭での生活水準に差が出てしまい、特に小学生では弁当の善し悪しでいじめなどにもつながる危険性もあります。また、給食には食育の意味もあります。給食センターで栄養士が考えたメニューは成長段階に応じた栄養バランスのよい食事が提供され、家庭に弁当を任せるとより、その児童生徒に適した食事が提供されます。食を学ぶ意味でも給食は必要です。また、弁当は肯定弁論でもあったように家庭での差が出ます。現に、弁当にパン1枚しかもってかられなかった生徒がいた、という問題も起こっており、義務教育として正しい食事を

(※事前に調べていた事例を言うことは効果的)

提供することは重要だと考えます。以上です。」

◇司会「時間は、〇分〇秒でした。では続いて肯定論チームの否定尋問をはじめて下さい。」

4) 肯定論チームからの否定尋問 3分

(3分過ぎ過ぎたら新しい質問には移らない。答弁が終わったところで打ち切り。)

「肯定論チームの高橋です。家庭での生活水準に差が出てしまい、特に小学生では弁当の善し悪しでいじめなどが生じるとありましたが、よくわからないので補足をお願いします。」

「里見です。例えば、一人が三段の豪華な弁当を持ってきて、片方がパン1枚であれば、そこに優劣が生じ、教育的によくありません。家庭の経済状況で優劣が生じるようなものが教育現場で起こることはいじめにつながります。」

「高橋です。その点について質問します。三段の弁当が大柄な生徒で、パンの生徒が小食な生徒であればむしろ食事として適していると思います。もちろん、栄養面の心配はありますが、その点は家庭に指導をすれば解消できると思います。そのような持参した弁当による差は優劣ではなく、個性と見なし、いじめなどが起こらないような指導を学校で行えばいいと思いますが、どうお考えでしょうか。」

(※追加の質問をすることで相手を追い込むことができる)

「里見です。あくまで可能性を述べただけです。弁当の差が必ず優劣を生じると言ったわけではなく、そのような可能性があるなら排除すべきと考えています。また、ひとりひとりの弁当を一人の教員がチェックすることはできず、さきほど言っていたように持参したものに栄養面の確認をしたり、家庭に指導するなどには困難とも思います。」

★答弁終了段階で3分を過ぎたら、

◇司会現在の経過時間が〇分〇秒で、すでに制限時間を過ぎていますので、否定論チームの否定尋問はこれで終わります。では続いて1分間の作戦タイムに入って下さい」

<作戦タイム2分または1分> 30秒前には席につけていること

(弁論中のメモを読み返したり、班でどのような内容を誰が話すかを話し合う。)

5) 否定論チーム最終弁論2分

◇司会「では、これから否定論チームの最終弁論をはじめて下さい。時間は3分です」

「否定論チームの里見です。義務教育であるからこそ、栄養管理のされた適切なメニューのある給食は必要です。前に述べたとおり、栄養面だけでなく、心理的な効果も高く、また、一括でつくる

(＊大事なものは繰り返し言うておく)

ため、給食費も同じメニューを家庭でつくって来るよりも安くあがります。また、女性が社会に出て共働きが推奨される現代では、朝早くに起きて、親が弁当をつくるのは負担になります。少子化

(＊ここであえて隠していた家庭の負担を最終弁論で出す。)

を食い止める意味でも、子供が増えると弁当をつくるのが大変、といった状況は生み出すべきではありません。また、集団での食中毒を懸念していましたが、手洗いうがいなどの指導をより行って

(＊相手の意見もしっかり踏まえる)

いくことは、給食に限らず、インフルエンザの予防にもつながり、そもそも学校で必要なものを考えています。以上のように給食を廃止すべきではありません。」

◇司会「ありがとうございました。では続いて肯定論チームから最終弁論をお願いします。

6) 肯定論チーム最終弁論2分

「肯定論チームの高橋です。やはり給食は廃止すべきでしょう。まず、今回の討論で個に応じたメニューの必要性を述べてきましたが、否定側の弁論ではその点は否定できませんでした。よく食べる生徒、小食な生徒に不適切な食事を与えかねないのが現状です。また、小食な子の分や休んだ子の分を他の生徒が食べることは、一方はタダ食いであり、他方は食べてもいない給食を払うという、

(＊立論で述べた内容を最終弁論で深めている)

不公平が起こっています。教育現場でこのようなことを安易に認めてはいけません。さらに中学生で部活動が始まると、運動する生徒にはより高タンパク質な食事をとる必要もあり、そもそも栄

(＊ここで、栄養が完璧と思われていた給食を崩す。これは計画通り。あらかじめ相手の意見も考えておき、反論も事前に用意しておく。)

養面が個人に適した完璧なメニューを給食が出しているというのは、あり得ません。また、立論の中に、同じメニューを食べるから仲が良くなる、とありましたが、異なる弁当を見せ合い、個性を感じながら、同じ空間で食事をとることは、仲が良くなることはもちろん、個性を引き出す教育につながりません。以上です。」

◇司会

ありがとうございました。以上で最終弁論まですべて終了しました。最後に審判チームの評価をお願いしたいと思います。お手元のディベートコメント用紙に個々の評価者が2分以内で判定結果を記入して下さい。その後、審判長は総合得点を集計してください。

◇司会「それでは集計ができたようですので、判定結果を発表してください。

◇審判長「ではこれから判定結果を発表します。最初に全体の総合評価の結果を述べます。肯定論チームの勝ちが〇〇票、否定論チームの勝ちが××票で、**論チームが勝利しました。おめでとうございます。

◇司会「ありがとうございました。それでは以上で＜義務教育において給食を廃止すべき＞についてのディベートを終了します。担当者の皆さんディベート進行へのご協力ありがとうございました。」

(以上で終了)